

# 総合患者支援センターニュース

〒700-8558  
岡山市北区鹿田町2丁目5番1号  
岡山大学病院  
総合患者支援センター  
☎086-223-7151 (代表)  
☎086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning  
Okayama University Hospital



センターの活動に関しては  
ホームページ (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/>)  
をご覧ください。



## うさぎ年の飛躍

総合患者支援センター長 公文 裕巳

新年明けましておめでとうございます。各部門の本年の展望についてお話しします。

平成15年にスタートした総合患者支援センターの活動内容を皆様にお届けするために、平成16年に創刊しましたセンターニュースが第20回の記念号となりました。この間、センターの実質的な運営を担当してくれました副センター長は、初代の下村宏之先生（現倉敷中央病院部長）から、平成16年9月よりは2代目の岡田宏基先生（現香川大学教授）となり、現在の体制が完成しました。昨年4月よりは石井亜矢乃先生にバトンタッチされ、新たな視点での深化が今年本格化することになります。設立当初は石橋さん1名であった医療ソーシャルワーカーも6名となり、センター内での相談業務に加えて、昨年12月からは病棟担当制を実施することが可能になりました。病棟スタッフとの緊密な連携のもとに患者支援体制のさらなる充実を図っていきます。また、高度先進医療を提供している大学病院において、医療依存度の高い患者さんの退院支援は重要な課題であります。安藤看護師長を中心に院内スタッフと協働して地域の医療機関との顔が見える連携構築を強化していく計画です。



本センターの英文名称 ISCPs “Integrated Support Center for Patients & Self-learning” に謳っていますように、患者さんの自己学習支援は当初から掲げている目標項目であります。患者図書室の運営もそのひとつの方策ですが、オストメイト（人工肛門、人工膀胱保有者）サロンなど患者さんの自主運営組織の構築と医療参加による実践的学習の支援がより効率的で具体的な方策と考えて、平成15年より実施してきました。昨年からはがんサロン、ミニ講座を開始しており、その運営方法を検証しながらがんに対する包括的医療、心のケアを含めた支援体制構築の一助にしたいと考えています。また、「患者様に最良の医療とケアを提供するために活動します」というセンターの合言葉を現実化しているエネルギーの源は、多くの一般ならびに職能ボランティアの方々、各種専門チームの献身的努力と熱意そのものであります。歯科部門や保健学科との更なる連携によって、「温かい心と知識と技術に裏打ちされた支援の手」、その手のつながりをさらに大きな輪として広げていきたいと思っています。

一方、患者支援部門と地域医療連携部門とを平成20年から統合し、変貌を続ける日本の医療の提供体制に相応して、広義の地域連携クリニカルパス（前方支援と後方支援）の構築と運用を目指しています。遅れています地域医療連携部門の体制強化が今年の課題であります。

以上、うさぎ年の飛躍を目指すとともに、「兎と亀」の例えではありませんが、ゆっくりと着実な前進も今年の課題と考えています。皆様方のご支援をお願い申し上げます。

# 平成22年度 ボランティア感謝状贈呈式及び親睦会

当院では、病院ボランティアとして活動して下さった方に、感謝状を贈呈させていただいております。今年度も12月10日(金)12時より、ボランティア感謝状贈呈式及び親睦会を開催しました。本年度の表彰者は10名で、うち7名にご出席いただきました。式では公文センター長の挨拶、保科副病院長より感謝状の贈呈がなされました。

親睦会では、30数名のボランティアさんとともに、ささやかな食事を囲みながら、短い時間ではありましたが、交流を深めることができました。ボランティアの磯山さんがしの笛の演奏を披露され、きれいな笛の音色で親睦会を盛り上げてくださいました。



## ＜今年度の表彰者＞

2000時間以上	中谷昌子さん 原田一則さん
1000時間以上	坂東文雄さん
500時間以上	谷みどりさん 延藤貴志子さん
200時間以上	石原順子さん 山上潤子さん 岩本治代さん(欠席) 中島和子さん(欠席) 安井崇子さん(欠席)

## 「がんと上手につきあうためのミニ講座」開催のお知らせ

昨年1月より、がん患者サロン(以下、サロン)を開催しています。名前も公募し「がんサロン岡大」と銘々され、これまで5回を開催しました。サロンの参加者の方にアンケートを行ったところ「患者さん同士で話をしたい」「がんに関する知識を得たい」という2つの目的を持って参加されている方が多いことがわかり、昨年10月からはサロンと平行して、専門スタッフによるミニ講座も始めました。講座では、患者さんやその家族がご自宅で生活して頂くときのヒントを提供させて頂いています。対象は、がん患者さんとそのご家族ですが、その他の方でも参加できます。

ミニ講座はこれまで2回開催し、第1回目は10月14日(木)に「がんとつきあう時の食事について」という内容で、当院の管理栄養士の坂本八千代氏が、第2回目は12月9日(木)に「自己管理とあなたのそばのサポーター」という内容で、当院がん看護専門看護師の北川善子氏が講演をしました。

今年度は下記の1回を予定しておりますので、どうぞご参加ください。また、次年度の予定については、本ニュース及び院内掲示板でご案内させていただきます。

### ＜次回の予定＞

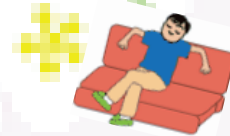
日時 平成23年2月10日(木)14時～15時です。(13時45分開場)

内容 「リラクゼーションについて」

講師 リハビリテーション部 理学療法士 福田智美氏

場所 入院棟11階G/Hカンファレンスルーム

☆お問い合わせ 総合患者支援センター 086-235-7744



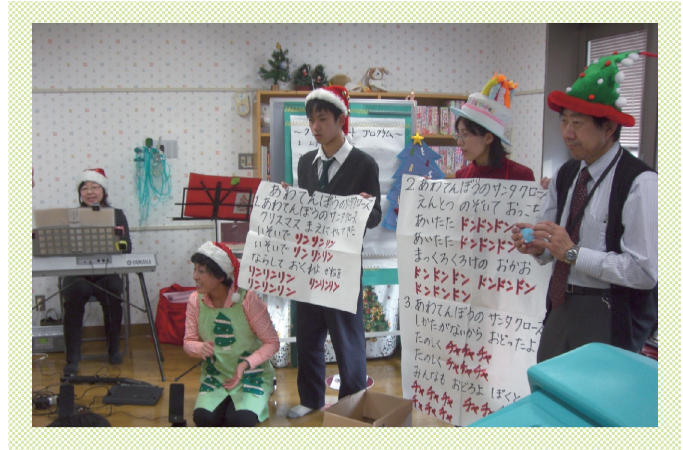


## ミュージックセラピー「音で あ・そ・ぼ・う！」



皆さん、音楽療法（ミュージックセラピー）ってご存じですか？

日本音楽療法学会の定義では、音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて音楽を意図的、計画的に使用することとなっています。音楽療法士である秀岡素子さんを中心に、音森美幸さんと中島徹也さんの3人が音楽療法研究グループを結成し、2005年4月より小児科病棟プレイルームで、入院中のお子様とその御家族を対象に「音で遊ぼう！」というテーマで音楽療法をされています。昨年は4回行われ、12月には総合患者支援センターの職員も加わって行われました。プログラム内容は季節感のある歌、簡易楽器を使用しながらの手遊び歌、ミュージックベルでのアンサンブルなどです。季節を感じながらご家族でリラックスしてほしい、気分の優れないお子様に笑顔になってもらいたい、不安や心配を和らげたい、つらい気持ちを発散しまた頑張してほしい、御家族の気持ちに少しでも寄り添いたい等々、音楽療法士としてそして親としての願いで進めておられます。



近くなりましたら小児科病棟にチラシをはってお知らせ致します。途中での入退室も可能ですのでどうぞお気軽にご参加ください。

## 事務からのお知らせ



### <工事関連について>

最近ご来院いただいたことがある皆様は、既にお気づきとは思いますが、現在、外来棟及び歯科棟の玄関周りで環境整備工事を実施しており、完成予定は平成23年2月末となっております。バス停から雨に濡れず病院玄関まで往来できたり、渋滞の緩和、また、自動車の乗降場所の屋根の拡大などが計画されております。

また、入院棟北側敷地は、現在更地となっておりますが、いよいよ新中央診療棟の建築工事が始まる予定です。この新中央診療棟が完成しますと、手術室が増えるほか、最新医療機器を使用した最先端医療を提供することが可能となります。

病院は常にどこかで工事をしていると思われませんが、それは大学病院が、その課せられた使命を達成するために、常に最新最先端の医療を提供できる体制を整える必要があるからにほかなりません。工事期間中は、患者さんをはじめ、その関係者の皆様にご不自由をお掛けすることとなりますが、何卒ご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

### <地域連携について>

関連医療機関の方々のご協力により、病院間連携が進んでおります。特に、紹介患者の予約に関しては、多数ご紹介いただき対応させていただいているところです。しかしながら、ご紹介いただいたにも関わらず、予約の受付に時間を要してしまっていることや、診察の予約時期が遅くなってしまうなど、紹介元の先生をはじめ患者の皆様にはご迷惑をお掛けしていることと思っております。このことは、事務部門として早急に改善策を講じる必要があることを認識しており、予約枠の見直しなどいろいろな角度から検証を行い、改善策を検討することといたしております。まだまだ、不十分な点はございますが、全力で対応に当たらせていただきますので、今後とも宜しくお願いいたします。

## 「母乳育児相談室」がリニューアルオープンしました

岡山大学大学院保健学研究所  
大井 伸子

平成 16 年4月に、母乳育児を行う上での相談や退院後の乳房トラブルに対処することを目的に「母乳育児相談室」を開設しました。毎週金曜日に予約制で行っていますが、緊急時などには随時対応しています。当初の相談室は備品が大変乏しくて、体重計やベッドなど病院で不要になった物品を調達しての開設でした。その後、幸いにも学長裁量経費（「地域貢献事業費」）による予算が配分されたことによって、相談室内の備品を少しずつ整えていくことができました。今年度は、旧総合診療内科の跡に「相談室」を移転し、平成 22 年8月にリニューアルオープンしました。

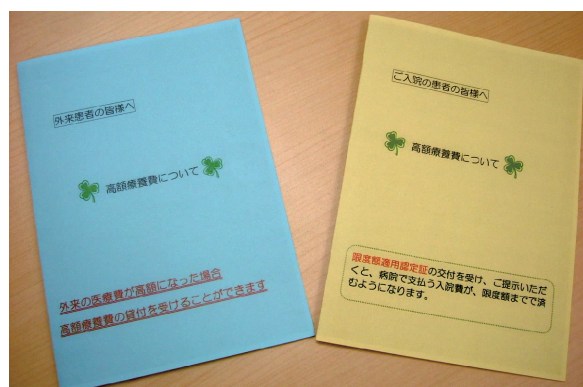


新しい相談室は以前より広くなり、内装もかわいい模様の壁や明るい色のブラインドにさせていただきました。現在、室内には授乳用のソファ（安楽に授乳ができるとお母様方に大講評）、赤ちゃん用のベッド（かわいいメリー付き）、相談者用の椅子（色は明るいオレンジ色）とテーブル、乳房マッサージ用の電動ベッド（対象者にあわせて高さが調節できるので、使いやすい）を設置しています。さまざまな相談に対応するために、搾乳器類なども用意しています。また、母乳育児に関連した本や雑誌も置いているので、来院されたお母様方が気軽に手に取って見ることができます。

相談者の方々は、岡山大学病院で出産された方やお子様が入院されている方が中心ですが、他の施設で出産した方からの相談もあります。相談件数は開設以来年々増加しており、平成 21 年度は 331 件になりました。現在も周産母子センターや産科外来のスタッフと連携しながら活動していますが、今後は地域の開業助産師と協働して、母乳育児支援を行っていきたいと考えています。そして、お母様方が落ちついて、ゆったりとした気持ちになって、何でも語る事ができる、そういった「母乳育児サロン」にすることが夢です。



## ～「高額療養費制度」のリーフレットを作成しました～



医療費のお支払いが高額になった時に利用できる高額療養費制度について、患者様が手に取ってご覧になれるようリーフレットを作成しました。

高額療養費とは、病院等でお支払いされた保険医療費が同じ月内に一定限度額を超えた場合、申請によりその超えた額が支給される制度です。（ただし、保険外の自費分は対象にはなりません）

外来患者様向け、入院患者様向けに分けて、下記の場所に置いてありますのでどうぞご覧下さい。

ご不明な点がございましたら総合患者支援センターでご説明していますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

リーフレット設置場所：外来患者様用・・・総合受付前の掲示板、外来  
入院患者様用・・・入退院センター



ファイザー株式会社

Life is our life's work.



いのちの輝きを見つめる 明治製菓